

## ⑳鎌倉沢川災害復旧事業

受賞機関 新潟県 南魚沼地域振興局 地域整備部

### ＜評価＞

平成23年新潟・福島豪雨災害で被災する以前は、昭和初期の砂防技術を見学できた鎌倉沢川砂防堰堤群の復旧事業。昭和の施工当時の工法・景観を重視し、県、国、住民や学識者などによる意見交換を行い、歴史的景観価値を損ねることなく復旧できた点や、この結果、有形文化財に登録されるという価値の高い取組みが評価された。

### はじめに

鎌倉沢川砂防堰堤群は昭和2年～10年に築造された空石積の砂防堰堤・床止工である。同砂防施設は、昭和初期の砂防技術を見学でき、加えて現役で機能している貴重な砂防施設であった。しかしながら、平成23年新潟・福島豪雨災害により大きく被災、従前の機能を回復させるため災害復旧事業により復旧することとなった。

### 事業の概要・成果

復旧にあたり、歴史的価値を考慮し、従来の機能回復のみを目指す単純なコンクリート造りではなく、施工当時の工法・景観を重視した復旧方針を立て、国と積極的に協議、全3回におよぶ住民・学識経験者等を含めた「鎌倉沢川歴史的砂防施設復旧に係る意見交換会」を実施、可能な限り被災前の状態を復元することとした。災害復旧の施工においては、流出した石材を拾い集め不足分は同材質の安山岩を使用、石材加工作業、石積作業に一級石材施工技能士を当て、被災前の状態を忠実に再現した。施工時の出水による手戻り、施工区域内で発生した地すべりの対応等、さまざまな困難を経て無事復旧され従前の機能を取り戻した。



鎌倉沢川砂防堰堤群（小学生建設学習会）

歴史的景観を損ねることなく復旧できたことから「国土の歴史的景観に寄与している」ものとして、平成27年8月4日に文化庁より登録有形文化財に登録された。災害復旧された砂防施設が登録有形文化財に登録される例は全国に見ても珍しいものである。

### おわりに

復旧工事完了後には「鎌倉沢川歴史的砂防施設活用に係る意見交換会」を開催し、同砂防施設で小・中学校生を対象とした建設学習会を開いている。今後とも、鎌倉沢川砂防堰堤群の積極的な活用を図っていききたいと考えている。

賛助会員 (株)アポロ調査設計、(株)植木組、桐生工業(株)、国土防災技術(株)

## ㉑二級河川犀川広域河川改修事業（緊急対策特定区間 上流工区）

受賞機関 石川県 県央土木総合事務所

### ＜評価＞

金沢中心市街地で発生した浸水被害の対策のため、治水上の支障となっていた既存用水堰の撤去や河道掘削等を行った事業。緩傾斜の落差工や階段護岸等の環境に配慮した河川づくりを有識者や地域の参画を得て実施した点や、施工後にサクラマスなどの遡上が確認されているなど対策の効果を把握している点が評価された。

### はじめに

犀川と浅野川が流れる金沢市街地を洪水から守るための治水対策は、犀川上流のダム群と浅野川から犀川へ放流する「浅野川放水路」の洪水調整施設を一体的に活用する治水計画となっており、平成20年7月の浅野川豪雨災害を契機に、犀川では下流工区（河口～伏見川合流点）と上流工区（鞍月用水堰周辺）を、浅野川ではJR橋梁～浅野川大橋間を「緊急対策特定区間」とし、重点的に整備を促進してきた。

### 事業の概要・成果

犀川の上流工区においては、「鞍月用水堰」が治水上支障となっており、改修では堰の撤去及び河床掘削による流下能力の確保を基本とし、これに伴う河床の安定化を図る落差工、河岸保護のための護岸工、新たな取水施設等が計画された。

計画にあたり、本整備区間が金沢市の景観計画における伝統環境保存区域等に位置付けられているとともに、両岸には市街地に隣接した「犀川緑地」が整備されており、憩いの場として広く県民に親しまれていることから、「鞍月

用水堰周辺デザイン検討委員会」を組織し、学識者や地域住民、関係団体から幅広く意見を得て計画を策定した。

平成22年から工事に着手し、用水堰の撤去と河床掘削の進捗

により、犀川の流下能力を格段に向上することができた。これに伴い、平成25年5月に「浅野川放水路」の放流制限を解除することができ、金沢市街地の安全・安心が確保された。

また、親水や景観、環境、歴史に配慮した緩傾斜の落差工や低水護岸、階段護岸等、一連の河川施設の整備が完成したことにより、県民の憩いの場として、今後より一層親しまれることが期待される。

### おわりに

これまで多くの関係者の方々のご意見をお伺いしながら本事業を進め、無事完成を迎えることができました。周辺住民をはじめ、事業にご協力をいただいた関係者のみなさまに改めて感謝を申し上げます。



犀川上流工区（鞍月用水堰周辺整備）